

平成 25 年度業務実績について



地方独立行政法人静岡県立病院機構

1 全体的な状況

(1)総括

平成 25 年度は、中期計画期間の最終年度であり、機構の業務も次期中期計画を見据えた仕上げの段階に入っております。経営状況については、独法化以降、毎年度黒字決算を達成できておりますが、平成 25 年度決算についても、経常収支見込は 2,489 百万円余(経常収支比率 106.8%)となり、5 年連続での黒字決算を達成できる見通しとなっております。

また、県民への医療サービスの向上と経営の健全化の実現のため、総合病院の救命救急センターの稼働、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入、こども病院の小児救急センター（ER）の開設などの取組みを行っております。

医療現場では、医師の過重労働や看護師不足が問題となっており、機構としても医師の過重労働対策として、夜間勤務の軽減を図る変則勤務の導入や、看護師不足対策として、柔軟な採用試験の実施や、修学資金貸与など、多様な取組みを行っております。

(2)平成 25 年度の業務実績の概観【H25.12 月末までの実績による年間見込み】

区 分		総 合	こ ころ	こ ども	計	
入 院	入院延患者数 (人)	H25見込	213,831	54,712	78,733	347,276
		H25計画	(217,287)	(58,681)	(76,969)	(352,937)
		H24実績	[211,110]	[58,140]	[76,046]	[345,296]
	病床利用率 (%)	H25見込	一般90.9	稼働83.3	77.3	86.1
		H25計画	(一般92.3)	(稼働89.3)	(75.6)	(87.5)
		H24実績	[一般90.3]	[稼働88.5]	[74.7]	[86.0]
	入院患者1人 1日当たり単 価(円)	H25見込	62,720	24,399	88,858	62,609
		H25計画	(62,742)	(23,848)	(87,808)	(61,742)
		H24実績	[62,232]	[22,405]	[86,908]	[60,960]
外 来	外来延患者数 (人)	H25見込	409,077	41,245	101,384	551,706
		H25計画	(406,173)	(37,695)	(104,827)	(548,695)
		H24実績	[406,237]	[39,167]	[97,771]	[543,175]
	外来患者1人 1日当たり単 価(円)	H25見込	16,684	6,053	14,457	15,480
		H25計画	(16,642)	(6,035)	(12,390)	(15,101)
		H24実績	[16,598]	[6,057]	[14,171]	[15,401]

※患者1人1日当たり単価は税込金額（調定額ベースで算定）。

※病床利用率は、総合620床、こころ180床、こども279床で算定。

- ・ H25 は入院延患者数、外来延患者数とも、前年度実績を上回る見込みである。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価、外来患者1人1日当たり単価は、平成 22 年及び平成 24 年の診療報酬プラス改定の好調を継続しており、前年度実績を上回る見込みである。

(3) 3病院の取組状況

① 総合病院

(ア) 救命救急センター指定による救急医療の充実

平成 25 年 7 月 1 日に救命救急センターとしての指定を受け、より重篤な救急患者の受入れを行っており、ヘリコプター搬送による広域的な患者受入れや、救急医の現場出動による早期の治療開始など、救急医療の充実強化を進めている。

○患者数の実績

救急外来患者数

(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4～12月計
H24	計	1,178	1,266	1,099	1,129	1,052	1,131	1,023	1,117	1,436	10,431
	うち入院	287	305	259	282	282	263	283	315	310	2,586
H25	計	1,002	1,246	1,014	1,224	1,204	1,007	1,030	1,048	1,276	10,051
	うち入院	298	302	260	305	279	270	284	334	342	2,674

※救命救急センター指定前と比べ、患者数には大きな変化はないが、外傷、中毒、心肺機能停止蘇生後など、重症・緊急症例の入院患者が増加。

○ヘリコプター搬送患者の受入件数

(単位：件)

7月	8月	9月	10月	11月	12月	月平均
1	4	2	7	5	2	3.5

※H25.1月～H25.6月の平均 1.0件

○救急医の現場出動による救急診療の実施

- ・静岡市消防局の救急車に同乗 7月～12月：計4件
- ・静岡市消防局の消防ヘリコプターに搭乗（平成25年12月開始）
- ・医師派遣用緊急自動車（乗用車型ドクターカー）の導入（平成25年度中予定）

(イ) 手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入

微細で精密な手術操作が可能な内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」を12月に導入し、平成26年2月から、泌尿器科における前立腺がん手術への適用を開始予定。

先進医療機器の「ダヴィンチ」の導入により、治療効果の向上と患者の身体的負担の軽減が図られるとともに、医師確保の効果も期待できる。

今後は、泌尿器科のほか、婦人科、大腸外科等に適用を拡大する予定である。

(ウ) 医師臨床研修内定状況（マッチング結果）

臨床研修を受けようとする医学生等と臨床研修を行う病院との組み合わせを行う今年度のマッチングの結果が10月に発表され、県立総合病院は県内の臨床研修病院及び大学病院のうちで内定者が最多数の21人となり、若手医師の研修受入れが好調となっている。

(単位：人、%)

区分	H24(H25.4研修開始)			H25(H26.4研修開始)		
	定員	内定者	内定率	定員	内定者	内定率
総合病院	17	16	94.1	22	21	95.5
静岡県	236	168	71.2	243	169	69.5
全国	10,519	7,908	75.2	10,489	7,979	76.1

※定員22人のうち、一般プログラム18人、小児科プログラム2人は定員枠すべてが内定、産婦人科プログラムは定員2人定員内定者1人

② こころの医療センター（司法精神医療への取組）

県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、触法精神疾患患者への専門的治療を実施しており、医療観察法病床は年間を通じてほぼ満床状態を継続し、平成25年12月末までに県内出身者累計21人を受入れ、うち10人が退院し社会復帰等を果たした。

○経過

- ・平成17年7月：医療観察法施行、指定通院医療機関に指定
- ・平成21年3月：指定入院医療機関に指定 8月～受入開始(2床)
- ・平成23年4月：2床から12床へ増床

○病床利用率【H25.12月末実績】

	H21	H22	H23	H24	H25
病床数(床)	2	2	12	12	12
病床利用率(%)	93.4	97.4	81.6	97.9	93.2

③ こども病院（小児救急医療への取組）

小児集中治療センター（PICU）において、専属の専門医15人を配置し、24時間365日体制で広域的に重篤な小児救急患者の受入れを行い、県内の小児救急の「最後の砦」としての役割を果たしている。

また、平成25年6月からは小児救急センター（ER）を開設し、地域の実情もふまえ、2次救急輪番制当番日も含む24時間365日体制で、重篤な患者以外の小児救急患者に対する受入れを開始した。

○入院患者数（4月～12月）

（単位：人）

	H24	H25	増減数	備 考
救急実入院患者数	493	532	39	
うち、 小児集中治療センター 実入院患者数	164	134	△30	
ER実入院患者数	—	862	—	6月から11月まで 2次救急当番日含む

○ヘリコプター搬送患者の受入件数

（単位：回・%）

区分	H23		H24		H25(4～10月)	
	回数	構成比	回数	構成比	回数	構成比
東部	31	62.0	21	40.4	15	60.0
中部	1	2.0	5	9.6	2	8.0
西部	16	32.0	19	36.5	7	28.0
県外	2	4.0	7	13.5	1	4.0
計	50	100.0	52	100.0	25	100.0

(4)平成25年度経営管理指標(決算見込み)

① 収益的収支(税込)【H25.9 末までの実績による年間見込み】

(単位:千円)

区分	款	項	9月末予算額 (年度計画)	決算額 (見込み)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収益	営業収益	医業収益	30,652,413	30,970,798	318,385	29,999,998	970,800
		運営費負担金収益	7,034,051	7,034,051	0	7,015,059	18,992
		資産見返負債戻入	181,411	178,410	▲3,001	188,979	▲10,569
		その他営業収益	252,522	231,401	▲21,121	195,976	35,425
		小計	38,120,397	38,414,660	294,263	37,400,011	1,014,648
	営業外収益	運営費負担金収益	265,949	265,949	0	284,941	▲18,992
		その他営業外収益	386,206	418,448	32,242	403,490	14,958
		小計	652,155	684,397	32,242	688,431	▲4,034
	臨時利益	臨時利益	—	—	—	—	—
	計			38,772,552	39,099,057	326,505	38,088,442
費用	営業費用	医業費用	36,964,458	35,568,665	▲1,395,793	34,267,616	1,301,051
		一般管理費	443,179	410,752	▲32,427	340,118	70,633
		小計	37,407,637	35,979,417	▲1,428,220	34,607,734	1,371,684
	営業外費用	財務費用	468,004	419,338	▲48,666	488,789	▲69,451
		その他営業外費用	207,886	210,969	3,083	183,753	27,214
		小計	675,890	630,307	▲45,583	672,541	▲42,237
	臨時損失	臨時損失	171,217	141,450	▲29,767	894,416	▲752,965
	予備費	予備費	50,000	0	▲50,000	0	0
	計			38,304,744	36,751,174	▲1,553,570	36,174,691
総収支			467,808	2,347,883	1,880,075	1,913,751	434,132
経常収支			639,025	2,489,333	1,850,308	2,808,167	▲318,834

- ・ 総収支は、2,347,883千円の利益となり、年度計画(9月末)よりも1,880,075千円増加する見込みである。
- ・ 経常収支は、2,489,333千円の経常利益となり、年度計画よりも1,850,308千円増加の見込みで、25年度も経常収支比率100%以上(106.8%)を達成できる見込みである。
- ・ 医業収益は、入院延患者数が計画を下回っているが、入院単価は上回っており、外来も、延患者数、単価ともに計画を上回っていることから、入院収益及び外来収益は計画及び前年度を上回る見込みである。(計画比+318,385千円、前年比+970,800千円)。
- ・ 医業費用は、材料費(前年比+132,577千円)、給与費(前年比+752,860千円)ともに増加していることから、前年度より増加する見込みであるため、年度後半に向けて効率的な執行に努める。

② 資本的収支(税込)【H25.9 月末までの実績による年間見込み】

(単位:千円)

区分	款	項	9月末予算額 (年度計画)	決算額 (見込み)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本収入	長期借入金	2,313,000	1,356,000	▲957,000	1,061,000	295,000
		長期貸付金回収額	0	750	750	800	▲50
		その他収入	15,137	14,459	▲678	139,576	▲125,117
		計	2,328,137	1,371,209	▲956,928	1,201,376	169,833
支出	資本支出	建設改良費	2,412,039	1,831,033	▲581,006	1,358,947	472,086
		償還金	2,527,989	2,949,212	421,223	2,491,812	457,400
		長期貸付金	91,200	75,750	▲15,450	50,900	24,850
		計	5,031,228	4,855,995	175,233	3,901,659	954,336
総収支			▲2,703,091	▲3,484,786	▲781,695	▲2,700,284	▲784,503

- 25年度の建設改良費は、1,831,033千円の見込みで、その内訳は、3病院の器械備品等資産購入が1,598,718千円、また、建設改良工事が232,315千円となっている。
- 長期貸付金75,750千円は、24年度から看護師確保対策として当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行っているものである。

③ 決算指標 <3病院計>(税込)【H25.9月末までの実績による年間見込み】

区 分	項 目	H25 見込 a	H24 実績 b	増 減 a-b
収 支 構 造	経常収支比率 (%)	106.8	108.0	▲1.2
	医業収支比率 (%)	87.1	87.6	▲0.5
	実質収益対経常費用比率 (%)	86.9	87.3	▲0.4
費 用 構 造	職員給与費対医業収益比率 (%)	58.3	57.5	0.8
	材料費対医業収益比率 (%)	28.0	28.4	▲0.4

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が中期計画の数値目標である100%を上回る106.8%が見込まれるが、前年比は1.2ポイントの減であり、運営費負担金を除いた営業成績を示す医業収支比率、実質収益対経常費用比率ともに前年度を下回ることが見込まれるため、下半期の取組みにより、少しでも減少幅が圧縮できるよう努力する。
- 費用構造では、職員給与費対医業収益比率が、人員増や委託から直接雇用への変更等の影響で前年比0.8ポイント増、材料費対医業収益比率は、ジェネリックの推進や、昨年度の確定交渉による単価減等の影響により、0.4ポイントの減となっている。

④ 看護職員の確保対策

平成26年度看護職員の採用状況【12月末までの実績】 H24年度の()内は年間における採用数

区 分	機 構 全 体 (採用内定者数)			特記事項
	H25【H26採用】	H24【H25採用】	増 減 数	
看 護 師	105	98(107)	+7	採用試験回数の増 年4→5回

看護師修学資金の貸与状況

年度	修学資金 貸与決定	前年度 継続者	貸与者計	返還資金 (県外借換)	採用数		
					H25	H26(予定)	計
H24	87		82	0	30	9	39
H25	73	51	122	0		26	26
累計	160			0	30	35	65

- 看護師の採用については、5月から試験を実施し(24年度は7月から実施)、定期募集の実施回数を4回から5回に増やし、年間を通じて切れ目のない募集を行うこととした。現在までのところ第4期までの実施が終了している。応募者数(24年度:121人、25年度:121人)は昨年と変化がないが、採用内定の応募数(24年度:98人、25年度:105人)は増加している。しかし、依然として充足には至っていないため、引き続き看護師確保に努めていく必要がある。
- 看護師を目指す看護学生を対象とした修学資金制度を平成24年度より開始し、貸与決定した87名の看護学生のうち30名を看護師として平成25年4月に採用している。平成26年4月には、24年度、25年度の貸与決定者を合せて、35名を看護師として採用を予定している。

2 項目別の状況

(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取組

<特筆すべき取組及び成果等>

①医療の提供

【総合病院】

- ア 循環器病センター3階のCCU/I CUを24時間体制で稼働。平成24年7月から2床減らして12床としたが、本館3階にHCU12床を開棟し、術後の重症患者への対応を更に充実。
- イ がん患者が受診後速やかに検査や手術が受けられる体制を構築し、化学療法や放射線治療を十分に提供。
- ウ 平成25年度に救急科医師5名（うち専門医2名）を確保し、体制の整備を図り、救命救急センター設置に向けて、施設改修・機器整備・人員確保に取り組み、同年7月に開設した。
- エ 平日昼間の救急外来の曜日別当番医師を定め、夜間・休日のみならず救急患者の受入体制を維持。

【こころの医療センター】

- ア 急性期病棟であった北2病棟について、平成25年5月から救急病棟へランクアップとなった。また、これに伴い従来の基準よりも厳格となった「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」等の施設基準についても、基準を満たして推移している。
- イ m-ECT（修正型電気けいれん療法）及び先端薬物療法（クロザピンなど）を積極的に実施。
m-ECT 398件、クロザピン 8名継続中（12月末時点）
- ウ 在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルを構築し、入院患者1名、外来患者5名への支援を継続。（12月末時点）
- エ 医療観察法指定医療機関として、患者一人一人に対応したきめ細かな治療プログラムの作成と県内の対象患者の受入が進み、年間を通じて満床に近い状態を継続し、医業収益も安定して確保。

【こども病院】

- ア 全国唯一の小児循環器集中治療医（CCU医）育成機能を有し、豊富な症例数を背景に研修プログラムを作成し、研修を実践。
- イ 平成24年度からNICU病床数を12床から15床に増床し、増加する新生児未熟児医療へ対応。平成25年度（12月まで）病床利用率99.4%
- ウ 「こどもと家族のこころの診療センター」は、「こどものストレスクリニック」、「摂食障害外来」の設置により、外来・入院治療を充実（患者数は4月から12月までの実績）。入院延患者数7,771人（前年比3.4%増）、外来延患者数9,163人（前年比6.0%増）

②調査及び研究

ア 各病院の医療情報やトピックスを県民等に向けてできるだけ早く情報提供するため、各病院ホームページを適時更新するとともに、本部においては、入札情報や機構への就職希望者向けの情報などを適時更新するなど、ホームページの活用を図った。

HP 更新件数 1,789 件、HP アクセス件数約 273 万件

イ 企業、法人及び研究機関等の外部資金を活用した研究を進めるため、平成 24 年度に奨学寄附金の受入れを可能とするための規程等を整備し運用している。

奨学寄附金受入れ実績：平成 24 年度 1,700 (千円) 平成 25 年度 4,500 (千円)

③技術者の研修

ア 医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整備。平成 25 年度予算の研究研修費割合 (研究研修費/医業収益) は、1.11%となっており、全国自治体病院 (一般病院) の実績平均 0.45% (H23) を上回っている。

イ 認定看護師やがん薬物療法認定薬剤師等、各職種における資格取得を支援し、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置。

④地域への支援

ア 総合病院では、複数医療機関相互の診療情報共有のため、各地域の自治体・医師会とともに「ふじのくにねっと」協議会を運営し、広域ネットワーク基盤を構築し運用。

イ 総合及びこども病院では、地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣。

総合：10 医療機関、13 診療科、延 478 人 (4～12 月)

こども：6 医療機関、2 診療科、延 525 人 (4～12 月)

ウ こころの医療センターでは、県内全域を対象とし、患者、家族だけではなく、医療機関や関係施設等からの相談にも対応する「精神科救急ダイヤル」を 24 時間体制で、救急医療相談に対応。

相談件数 1,900 件 (前年比 5.7%増)、うち時間外件数 1,517 件 (前年比 7.3%増)

(4～12 月)

エ こども病院では、地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施。

実習受入 212 人 (前年比 94.7%) (4～9 月)

⑤災害等における医療救護

ア 東日本大震災を契機として、3 病院で既存の災害対応マニュアルの見直しを随時実施。総合病院では、地下水を浄化して飲料水などに活用するシステムを構築中。

イ 総合病院DMATチームが、県及び中部ブロック主催の防災訓練に積極的に参加し、災害時の医療救護における体制を整備。

⑥人材の確保及び育成

ア 次年度の採用の募集終了後における、新たな要因による必要数の増加や退職等に対応するため、柔軟に追加試験を実施した。

イ 今後の安定的な看護師確保を期待して、平成 24 年度に看護師修学資金制度を創設し、87 名に貸与を決定、平成 25 年度は 73 名に貸与を決定した。

(2) 業務運営の改善及び効率化

<特筆すべき取組及び成果等>

①簡素で効率的な組織づくり

ア 毎月の理事会や運営会議等の開催を通じて、機構幹部が常に経営状況を把握するとともに、状況の変化に応じた的確な予算措置や組織改正を行うなど、独立行政法人制度の特徴を活かした病院運営を実施。

②効率的な業務運営の実現

ア 未収金回収の外部委託について、平成 24 年度から弁護士法人に変更した結果、それまでの債権回収会社に比べて、回収率の改善が図られた。

回収率：H24 年度年間実績 26.0% ⇒ H25 年度 12 月末実績 40.8%

イ 全職員対象に診療報酬の適正請求にかかる研修会等など、業務の質の向上を目指して確実に実施するとともに、新たな施設基準の取得にも積極的に取り組み、経営改善に努めた。

ウ 診療材料費について、医療従事者と協働し、同種同効品の絞込み、3 病院品目共通化、価格交渉、安価な材料への切替え等を進め、約 20,000 千円の節減効果。また、薬品費は 3.8 ポイントの値引率改善を達成。

③事務部門の生産性の向上

ア 本部・病院で共通性の高い人事・給与、予算・決算事務において法人共通マニュアルを作成し、個々の引き継ぎレベルの業務についてもマニュアル化を促進。

④業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成

ア 「改革・改善推進制度」に職員が進んで取り組めるよう促進。(毎年 100 件以上提案)

⑤就労環境の向上

ア こども病院では、平成 25 年 11 月から看護師の夜勤専従勤務の試行を開始し、個々のライフスタイルに合わせた勤務形態を取り入れることにより離職防止を図る。

イ 総合病院の救命救急センター、こども病院小児 ER の開設に伴い、医師の変則勤務の試行を開始し、医師の負担軽減を図っている。

ウ 総合病院院内保育所において、平成 25 年 12 月から日曜保育(第 2 日曜日を除く)を開始した。

エ 職員のみならず、患者の利便性の向上に資するため院内の継続的な環境改善に努めた。

総 合：外来受付を集合化

こども：夜勤看護師用駐車場整備、軽食自動販売機設置

オ こども病院では、夜勤看護師の仮眠用ベッドに低反発マットレスを追加し、快適性を向上した(10 病棟 17 ベッド)